

## 1. 保存検討委員会について

### ■趣旨

- (1) ガスビルの歴史的建築物としての価値を確認する。
- (2) ガスビルの改修の必要性を確認する。
- (3) 用途変更後に要求される機能・性能とガスビルの持つ価値を両立させる保存活用手法を検討する。
- (4) 景観・街づくりのあり方を踏まえた上で、御堂筋沿道の建物にふさわしい景観形成・歴史継承の方針を検討する。

### ■保存検討委員会メンバー

委員長 加藤 晃規（関西学院大学名誉教授）  
委員 石田 潤一郎（武庫川女子大学教授）  
主催 大阪ガス株式会社、大阪ガス都市開発株式会社

## 2. 現ガスビル建物概要

	南館	北館
竣工年	1933年（昭和8年）	1966年（昭和41年、増築）
設計者	安井武雄 （現 株式会社安井建築設計事務所）	佐野正一 （株式会社安井建築設計事務所）
施工者	株式会社大林組	株式会社大林組
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 8階建	鉄骨鉄筋コンクリート造 8階建
延床面積	18,422.90㎡	27,700.56㎡

## 3. ガスビルについて

- 昭和8年(1933年)3月、当時、拡張工事中だった御堂筋(昭和12年工事完了)の沿道に、大阪ガスビルディング(当時の呼称は「大阪ガスビルヂング」)、通称ガスビルは竣工した。当時のガスビルは御堂筋・平野町通・御霊筋・道修町通を囲むブロックの南半分に、現在の南館のみが竣工し、その後昭和41年(1966年)に北館が増築され、現在に至っている。
- ガスビル南館の意匠は、「過渡期的近代建築の好例」(※1)、「モダニズム建築の名作」等の評価を受け、御堂筋沿道のランドマークとして、市民の皆さまに親しまれている。
- 当時のガスビルには、大阪ガスの本社事務所としての機能だけではなく、まだ珍しかった都市ガスによるモダンでハイカラな都市生活と文化を紹介し、親しんで頂くことを目的に、様々な施設が設置された。例えば、料理講習場(当時南館7階・現在南館1階)・欧風料理店(ガスビル食堂・南館8階)など現存する施設のほか、ガス機器展示場(ショールーム)、600名収容の講演場、美容室などが人気を博した。
- 昭和41年(1966年)、都市ガスの需要拡大に伴って本社事務所を拡張するため、北館を増築し、現在の「1ブロック・1ビルディング」の姿となった。北館は、南館の骨格を踏襲しながら、窓周りを軽快にするなどより現代的なデザインとして、新旧の調和を図っている。
- その後、平成15年(2003年)、南館は文化財保護法にもとづいて国の「登録有形文化財」に登録され、現在は竣工89年を迎えている。

引用

(※1) 文化庁、「大阪ガスビルディング」.文化遺産オンライン .<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/188000>、(参照 2022.06.07)

## 4. ガスビルの特徴

### ■ 外観の特徴

(南館)

- 歴史様式的装飾を排しながらモダニズム建築的要素である水平や垂直線を基調とした明快で幾何学的な線による構成
- 白磁のタイルと黒御影石による、黒と白の対比
- 法規制(高さ制限など)や機能をデザインに昇華(映写室など)

(北館)

- 南館と調和しつつ、材料、モチーフ、比例などを個々にそのまま延長するのではなく、全体の風格なり美しさとしてとらえて新ビルに生かしたデザイン
- ガラス面積の大幅な拡大により、開放的で明るいオフィスの居住性の向上

### ■ 外観の写真



▲南館を南東側から臨む(1933年竣工当時)



▲現在のガスビルを南東側から臨む(2017年撮影)



▲東側から臨む(1966年北館竣工当時)

(左上)  
所蔵：安井建築設計事務所  
(右上)  
撮影：浅川敏  
(左下)  
撮影：多比良 敏雄

### ■ 内部の特徴

(南館)

- 竣工時の石材が床・壁に残る、1933年の竣工当時の建物の雰囲気伝えるエントランスホール
- ガスビル外観をモチーフにしたデザインで、安井武雄らしいアールデコ調のデザインが見られる階段壁面の丸窓
- 南館竣工と同時に誕生し、建物を象徴するレストランであるガスビル食堂(ガスがもたらす文化のPR施設として、一流の料理を提供)

(北館)

- 1966年の北館増築時の建物の雰囲気伝えるエントランスホール

### ■ 内部の写真



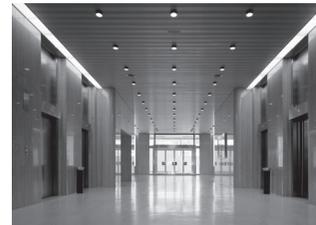
▲南館エントランスホール(1933年竣工当時)



▲南館エントランスホール(現在)



▲階段壁面の丸窓



▲北館エントランスホール(1966年竣工当時)



▲北館エントランスホール(現在)



▲ガスビル食堂(1933年竣工当時)



▲ガスビル食堂(現在)

(左上)  
所蔵：安井建築設計事務所  
(左中)  
撮影：新建築社写真部  
(左下)  
所蔵：大阪ガス

## 5. 保存活用の方向性（内部）

### ■ 基本的な方向性

- ガスビルは、より多くの方にご利用いただけるよう、現状の自社ビル用途から、にぎわい施設や賃貸オフィスに用途変更する。

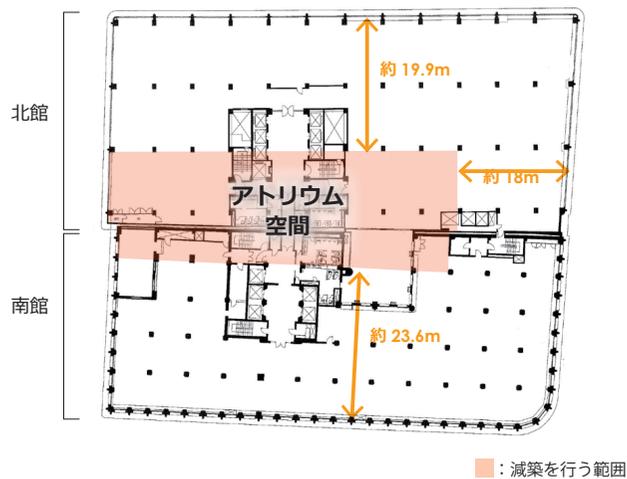
### ■ 計画の概要

- 現在の床面積の約 85%（※ 1）の躯体を保存する。
- エントランスホール等の建築当時の趣を残す内部空間を保存する。
- 御堂筋のにぎわいの創出、賃貸オフィスビルとしての使い勝手向上のため、南館と北館の接続部分を一部減築（※ 2）し、1 階から 8 階まで吹抜のアトリウム空間を整備する。
- 減築により、建物の軽量化による耐震性向上も図ることで、将来にわたった長期保存・活用を可能とする。

（※ 1）延床面積に対する保存面積の割合。

南館は南側外壁から約 23.6m、北館は北側外壁から約 19.9m、東側外壁から約 18m を保存。

（※ 2）建築物の床面積を減らすこと。



- 1 階から 8 階まで吹抜のアトリウム空間を整備する。

【平面構成】

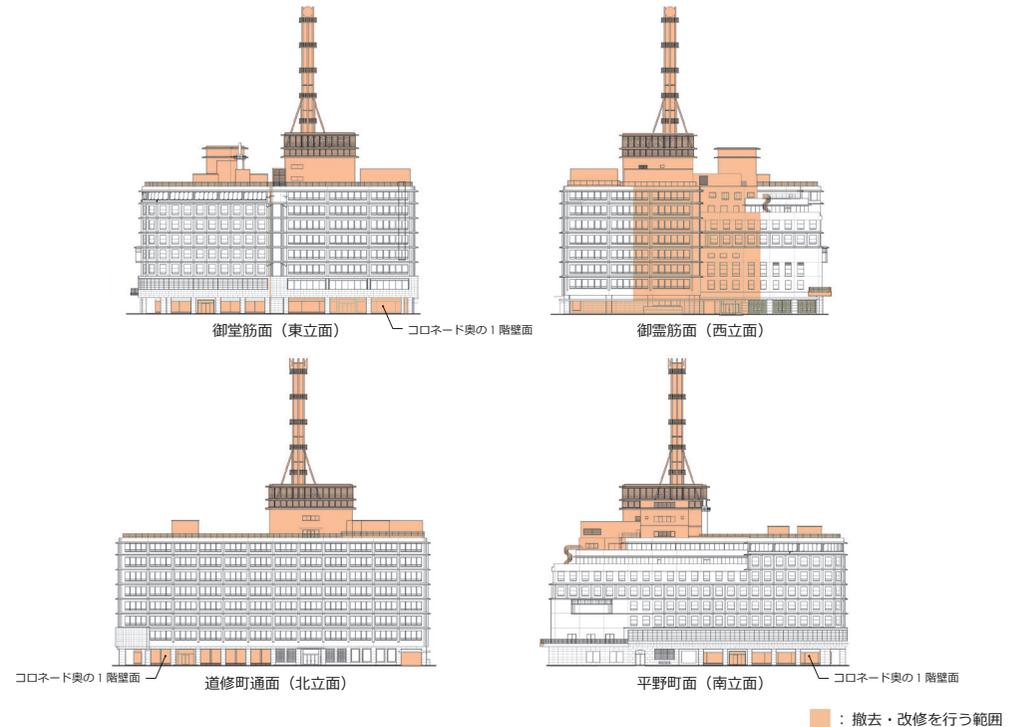
## 6. 保存活用の方向性（外観）

### ■ 基本的な方向性

- 南館・北館の一体的な外観構成を保存する。

### ■ 計画の概要

- ガスビルの最大の特徴である、南北一体となった外観について、御堂筋（東側）壁面、平野町通（南側）壁面、道修町通（北側）壁面を保存する。
- 御霊筋側（西側）壁面の一部は改修を計画するが、北西および南西のコーナー部分等を保存する。
- 1 階についてはコロネード（歩行者空間）の骨格（御堂筋側、平野町通、道修町通の列柱と、黒御影石の壁面部分）を保存する。
- コロネード奥の 1 階壁面については、ガラス・サッシ等を商業施設等の内部用途に合わせて改修することで、御堂筋沿道のにぎわいづくりに寄与する。
- 屋上の鉄塔（無線塔）塔屋等、西新ビルに機能が移設されることにより不要となる設備については、撤去する。



- 2 階以上の窓サッシについては、性能の向上を図るため改修を行い、現状に近い意匠に再現する。
- 改修範囲は今後、変更の可能性はある。

【外観の撤去・改修範囲】